

日本海をまかり通る密漁

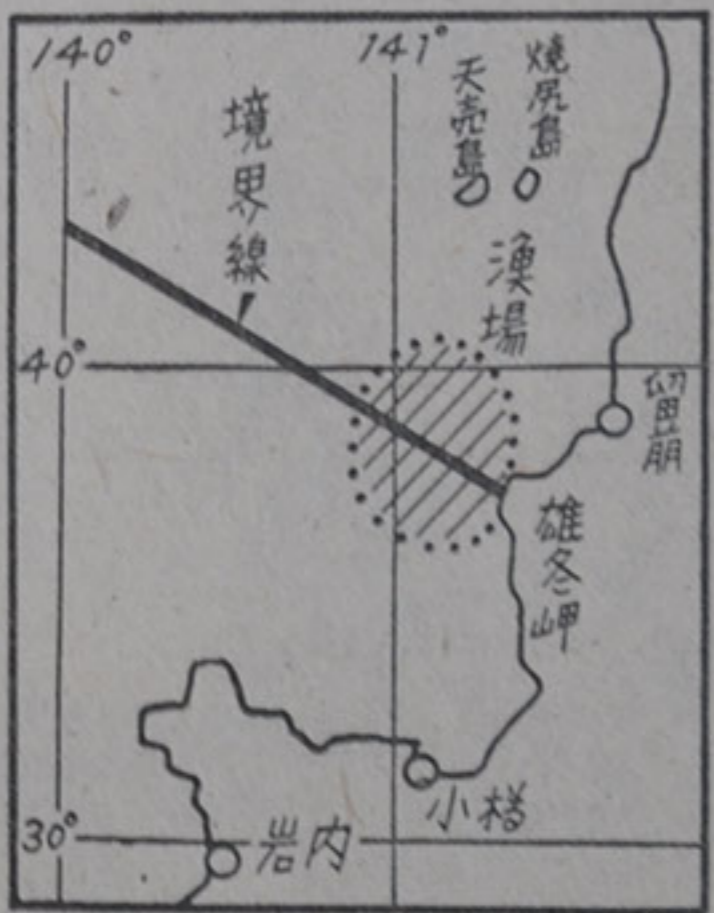
舞台上踊る海区漁業調整委員

これは十七日、日本海スケン漁に関する北後志漁民の道水産部への陳情で明るみに出たものでいきさつはこうだ。

道では昨年、スケンの許可方針

を決めるにあたって、二一四海区を一本にした大海区制にしようとする計画、道連合海区漁業調整委に提案した。増毛と雄文沖に限定されているスケン漁場にできるだけの漁船を入れてニシン不漁に悩

日本海はいま懸賞で計画的な密漁の場になっている。海の秩序を守るべき海区漁業調整委員ら数人が約を結んだという事実がそれ。自分たちが作った規則を自ら破りこじ、たわけで、このため漁場はさうない不祥事と驚き、監視船を急ぎ出動させて取締りに当たっており、また場合によっては刑事事件への



む漁民たちに公平に資源を分ちようというのがネライだったが、留明、石狩、北後志では南後志、松山の漁民を漁場から締め出すため的大海区制に強く反対、結局この主張が通って留明、石狩の間に隣

問題の日本海漁場

境界が設けられた。

ところがそのあとの昨年十二月十九日、留明、北後志では連海区の石田露松、伊達静吉、谷常三郎の三委員と同単海区青山肇、佐々木孝泰、秋田初郎の三委員が秘密裏に会議を開き『三カ年相互に漁場を開き』との密約を結ぶ署名入りの文書を取交した。ウラベで境界線を引いて南後志、松山

慎重に

西尾水産部長の話 いま調査しているが事実だとすれば北海道業史始まってからの出歩だ。漁業秩序の守り本陣である海区委員が許可方針を曲げたのであれば重大問題であり、道は慎重に対策を検討しているどこまでも究明する

井野(社)道議会水産常任委員の話 事実だとすれば大変な話だ。委員会はもちろん丁寧に持つ込んで内容はとことんで究明する。

お互いの緩衝地帯だ 道連合海区漁業調整委員石松氏(道漁連副会長)の話 松氏(道漁連副会長)の話 松氏(道漁連副会長)の話 松氏(道漁連副会長)の話

れぶん”きょう出港

ソ連抑留漁夫引取り

【小樽発】ことし二回目はソ連からの抑留漁夫、小樽市北高島町小林水産所所属第二一千歳丸(五八ト)漁労長長田好一さん(三九) 集田郡尻岸内村字恵山以下十一人を引取りのため小樽海上保安部巡視船「れぶん」(四五〇ト) 船長宮坂博男一保正は十八日午前十時小樽港を出港、ソ連沿海州沖に向う。



ひざ詰めで西尾水産部長に陳情する北後志の町村長と漁民たち

玩具の弾が爆発

中学生の 幼児、火傷を負う 科学遊びで

【函館発】十七日午後三時十五分、函館市南東町清水台七号一倉花本屋で、小学生(十歳)の児童二ちゃん(七歳)と三ちゃん(六歳)が、玩具の弾が爆発し、三ちゃんに火傷を負った。二ちゃんは腕に軽傷を負った。火傷を負った三ちゃんは、市立中央病院に搬送された。

美唄市西沼の内自動車道手(二)が市内をうろついでいところを誘導の疑いで逮捕したべにすると地方は二月十七日岩見沢市一ノ西二百通り岩見沢市一ノ西二百通り岩見沢市一ノ西二百通り岩見沢市一ノ西二百通り

